

総合科学技術会議と日本学術会議との懇談会（報告）

日時：平成 17 年 11 月 24 日（木）

場所：東海大学校友会館

日本学術会議の新体制発足を機に総合科学技術会議と日本学術会議との連携強化を図るため、本懇談会が開催されました。

総合科学技術会議からは、阿部博之議員、岸本忠三議員、柘植綾夫議員、黒田玲子議員、日本学術会議からは、黒川清会長、浅島誠副会長、大垣眞一郎副会長が出席しました。

第一回となる今回は、わが国の科学技術の推進に寄与するため、車輪の両輪として機能するための総合科学技術会議と日本学術会議との関係のあり方などについて、活発な意見交換が行われました。

この他、「日本の科学技術政策の要諦」について、総合科学技術会議側から、高い評価が示されるとともに、具体化を期待する旨の発言がありました。

また、今後、概ね 2 ヶ月に 1 回の頻度で継続して同懇談会を開催することとなりました。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課総括係

(Tel:03-3403-1250、p221@scj.go.jp)

科学者委員会男女共同参画分科会及び学術体制分科会の設置（報告）

11月24日の第5回幹事会において、科学者委員会の分科会として、「男女共同参画分科会」及び「学術体制分科会」の設置が科学者委員会委員長から提案され、以下のとおり承認されました。

(1) 男女共同参画分科会

(ア) 調査審議事項

科学に関する男女共同参画の推進に関すること

(イ) 構成

各部の4名以内の会員及び委員会の5名以内の委員

(2) 学術体制分科会

(ア) 調査審議事項

学術の制度・振興等に関すること

(イ) 構成

各部の4名以内の会員及び委員会の6名以内の委員

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課情報係
(Tel:03-3403-1906、p228@scj.go.jp)

科学者の行動規範に関する検討委員会の委員の承認（報告）

1 1月24日の第5回幹事会において、課題別委員会「科学者の行動規範に関する検討委員会」の委員について、各部から推薦された以下の候補者が承認されました。（五十音順、敬称略）

浅島 誠	第2部会員
井上 達夫	第1部会員
入倉 孝次郎	第3部会員
笠木 伸英	第3部会員
佐藤 学	第1部会員
猿田 享男	第2部会員
鈴木 莊太郎	*（東邦大学医療センター大森病院）
田中 英彦	第3部会員
松本 三和夫	*（東京大学）
御園生 誠	*（独立行政法人製品評価技術基盤機構）
山岸 俊男	第1部会員
鷺谷 いづみ	第2部会員

*：臨時の連携会員予定者

学術とジェンダー委員会の設置（報告）

1 1月24日の第5回幹事会において、課題別委員会として「学術とジェンダー委員会」の設置が提案され、以下のとおり承認されました。

（1）提案者（五十音順、敬称略）

浅倉むつ子（第1部会員）、上野千鶴子（第1部会員）、江原由美子（第1部会員）、大沢真理（第1部会員）、大隅典子（第2部会員）、落合恵美子（第1部会員）、小箱香椎子（第3部会員）、辻村みよ子（第1部会員）

（2）委員会設置の必要性・期待される効果等

日本学術会議では、(1)学術分野における男女共同参画推進、(2)ジェンダーに関する学際的研究の促進、という2つの目的のもとに、第18期に「ジェンダー問題の多角的検討のための特別委員会」、第19期には第1部（人文科学分野）に「ジェンダー学研究連絡委員会」、第2部（社会科学分野）に「21世紀の社会とジェンダー研究連絡委員会」を設置し、2005年6月に対外報告書「男女共同参画社会の実現に向けて - ジェンダー学の役割と重要性」を提出した。

しかし、学術分野全体の男女共同参画も、ジェンダーに関する学際的

研究も、いまだ十分ではない。とくに後者について、文系・理系を総合する学際的・融合的研究の開発が強く期待される（上記第19期対外報告書では、「災害とジェンダー」、「性差医療」などを例示）。第20期においてこれを行う意義は大きい。さらに最近では、ジェンダー概念やジェンダー研究に関する誤解も見受けられ、取り組みが後退することも杞憂とはいえない。

そのため、課題別委員会を設置して、ジェンダーないし性差に関連する諸問題の総合的学際的研究の意義およびその推進策について検討し、中立的立場にたつて政策的提言を行うことが必要である。また、上記の目的(1)（学術分野の男女共同参画推進のための施策等）を検討する科学者委員会男女共同参画分科会と連携して活動することにより、有益な成果を得ることができる。

(3) 審議事項

ジェンダーないし性差に関する学際的・融合的研究課題を開拓し、その意義と課題を明らかにするため、シンポジウム・研究会などを開催して検討する。これにより、ジェンダー概念やジェンダー学に関する最近の議論の問題点を解明し、最終報告書を提出する。

(4) 設置期間

平成17年12月1日から平成18年11月30日まで

(5) 構成員数 15名程度

【問い合わせ先】日本学術会議事務局参事官（審議第二担当）付
(Tel:03-3403-1056、s254@scj.go.jp)

第5回産学官連携サミット（報告）

日時：2005年11月14日（月）

場所：東京プリンスホテル

テーマ：「産学官連携の新展開の方向を、先進事例をもとに考える！」

5年目となる今回の産学官連携サミットは、これまでの産学官連携の成果と課題を総括し、新しいフェーズにおける我が国の産学官連携の幕を開くことを目的に開催され、約1000名が参加しました。

日本学術会議は、内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、日本経済団体連合会と共に、毎回このサミットを主催しています。黒川清会長が、主催者挨拶を行い、全体ディスカッション「産学官連携の新展開の方向を、先進事例をもとに考える！」では、モデレータを務めました。また、浅島誠副会長、石倉洋子副会長、広渡清吾第一部長、唐木英明第二部副部長、廣橋説雄第二部幹事、河野長第三部幹事も出席しました。

主な論点としては、産学官連携の推進部門と現場とのギャップの解消、教

育・人材育成の重要性、ベンチャー育成・支援等が挙げられました。
最後に、サミットの共同宣言（(1)科学技術関係人材の育成・確保、(2)本格的な産学官連携への深化と研究成果移転への支援、(3)大学改革の推進、(4)地域の科学技術振興、(5)知的財産の戦略的保護と活用、(6)科学技術に関する政府研究開発投資の拡充）が採択されました。

サミットの詳細については、以下のホームページを御覧ください。

<http://www.dori.jp/summit5/index.htm>

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官室（審議第二担当）

(Tel : 03-3403-1056、s269@scj.go.jp)

フィリピン国家研究会議議長（フィリピン科学技術省次官）来訪（報告）

11月15日、フィリピン国家研究会議の Dr. Fortunato T. De la Pena 議長（フィリピン科学技術省次官）が黒川清会長を訪問しました。

De la Pena 議長からは会長に対し、2005年12月1～7日に「持続可能な開発のための研究協力」をテーマに行われる「フィリピン国家研究会議創立72周年記念シンポジウム」への会長の招待と、12月7日のシンポジウムでの基調講演の依頼があり、会長は両者とも承諾しました。

意見交換では、日本側から本年10月の組織改革を経た日本学術会議の新体制について説明し、来年4月にインドで開催されるアジア学術会議へのフィリピンの積極的な参加を確認、また、2010年のフィリピン開催など活発な議論が行われました。

米国国立科学財団東京事務所長来訪（報告）

11月16日、米国国立科学財団の Dr. Junku Yuh 東京事務所長及び Ms. Joyce Rabens 米国大使館環境・科学技術担当参事官が黒川清会長を表敬及び意見交換のため訪問しました。

意見交換では、日本側から、本年10月の組織改革を経た日本学術会議の新体制及び財政について説明。また、国際関係業務においては、アジア学術会議、G8学術会議、持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議、日英二国間学術交流、日・カナダ女性研究者交流事業などの各国との協同研究プロジェクト等について説明がなされ、今後の相互の情報交換等も含め、活発な議論が行われました。

【問い合わせ先】

日本学術会議事務局参事官室（国際業務担当）国際調査担当

(Tel : 03-3403-5731、i266@scj.go.jp)

日本学術会議改修工事（お知らせ）

平成17年6月4日（土）より組織改編に伴う改修工事を行っております。
庁舎内において使用出来ない施設や騒音等が発生するため、ご不便おかけしておりますがよろしく申し上げます。

なお、会議等で来庁する方は、車での来庁を極力控えるよう協力方を願います。

また、1階ラウンジ及びスナックの工事に伴い、会員等の控え室的なものがなくなりましたので、工事終了まで「5 - B会議室」（5階）を控え室といたします。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局管理課

(Tel:03-3403-1930、a238@scj.go.jp)

黒川清会長のTV出演（お知らせ）

放送日：12月6日（火）21：00～

放送チャンネル：スカパーフェクTV

772Ch（ケアネットTV・メディカルチャンネル）

5月28日の日本学術会議共同主催国際会議「世界一般医・家庭医学会2005年アジア太平洋会議（WONCA）」での、黒川清会長の基調講演「世界のヘルスケアの課題と可能性」が放送されますので御覧ください。

新規広報資料（お知らせ）

10月3日の総理大臣官邸での任命式の様子を掲載したCabi ネット平成17年10月15日号（時事画報社）の記事をホームページに転載しました。

資料は、以下のホームページを御覧ください。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/print/pdf/cabi.pdf>)

会員ホームページとのリンク募集（案内）

日本学術会議会員のホームページと日本学術会議のホームページとのリンクの募集中です。

日本学術会議のホームページ（第20期会員一覧）の会員氏名をクリックすると、リンク先に移動するよう設定します。

（会員一覧：<http://www.scj.go.jp/ja/info/member/index.html>）

リンクを希望される場合は、リンク先アドレスをお知らせください。

なお、リンク先は会員ご自身のホームページとするようお願いします。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局企画課広報担当

(Tel:03-3403-1906, p227@scj.go.jp)

=====

日本学術会議ニューズメールは、転載自由です。貴団体の学術誌等への転載や貴団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

なお、御意見等がありましたら、各問い合わせ先まで、お寄せください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、p228@scj.go.jpまで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木7-22-34